

特集「次世代のインターネット/分散システムの構築・運用技術」の編集にあたって

林 英 輔†

分散システム/インターネット運用技術(DSM)研究会は、1996年に創設された。この頃、インターネットの展開は開始されたものの、実際のシステム構築や運用のための技術は、いまだ十分に蓄積されておらず、高度で多様な利用形態に柔軟に対応できる、ネットワークや分散コンピュータシステムを設計・構築し、効率的に運用する技術の確立など、種々の問題を解決する必要に迫られていた時期であった。本研究会の活動の目的は、まさにこの問題の解決の研究を促進するため、研究発表と討論の場を確保し、研究を大いに促進することであった。その後、インターネットの爆発的な広がり利用の拡大は、運用技術に対して絶え間なく新しい課題を提起している。本研究会では、これらの研究内容と成果を、いわゆる学術的内容としても高める努力を積み重ねてきた。本研究会の最初の論文誌特集号は昨年度刊行され、そこには、13編の論文が掲載された。

それから1年を経て刊行される本特集号は、標題のように「次世代のインターネット/分散システムの構築・運用技術」を中心テーマとしたものである。急速に拡大するインターネットでは、新しい利用展開の動向は新しい課題を提起し、運用技術の改善を促す。運用技術の改善はまた新しい利用動向を促している。ネットワーク利用の増大や、ネットワーク利用の有効性を様々な分野の事業、社会活動や生活活動に拡大する動きは、コンピュータネットワークのブロードバンド化や次世代IPプロトコルIPv6の採用へと影響を強めている。このような動向をふまえて、本特集号は「次世代のインターネット/分散システムの構築・運用技術」をテーマとした。本特集号への投稿論文は32件であり、採録論文は17件であった。採録率53%は、昨年度に比べると向上したものの、不採録になった論文には、昨年度と同様、特集号のテーマに対する投稿

者の意識と査読基準の間のミスマッチが見受けられたものやさらに構成を検討し、論旨を明解にして再投稿で挑戦して欲しいものが見受けられた。やはり、参照価値が高く、新しい知見を含む実際の分散システムの構築・運用を内容とした論文を積極的に採録できる査読基準とその運用は、課題として継続しなければならないと感じている。最後に、多忙にもかかわらず、本特集号の編集に努力していただいた編集委員の方々、査読者の方々、そして、本特集号にご投稿いただいた方々に心から感謝の意を表します。

「次世代のインターネット/分散システムの構築・運用」
特集編集委員会

- 編集長
林 英輔(麗澤大学)
- 編集委員
相原 玲二(広島大学)
一井 信吾(東京大学)
大塚 秀治(麗澤大学)
菊池 豊(高知工業大学)
東野 輝夫(大阪大学)
中川 郁夫(インテック)
中村 眞(シャープ)
中山 雅哉(東京大学)
箱崎 勝也(電気通信大学)
長谷川明生(名古屋大学)
樋地 正浩(日立東北ソフト)
藤崎 智宏(NTT)
松浦 敏雄(大阪市立大学)
宮地 利雄(NEC)
山井 成良(岡山大学)
渡辺 健次(佐賀大学)

† 麗澤大学